



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(4)

【概要】

2025 年 9 月 26 日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授と理工学部の学部生、先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」からの要請により、実験を通じて理科への関心を高め、子どもたちの就学意欲を育むことを目的として実施しています。

大学が不登校支援機関と連携して理科実験教室を行う取り組みは、全国的にも数少ない事例であり、これまで多くの大学生・大学院生がボランティアとして参加してきました。

2025 年度第 4 回の実験教室は、9 月 26 日（金）に開催され、理工学部化学部門の長田 聡史 教授の指導のもとで、理工学部生命化学コースの学部生と先進健康科学研究科（理工系）の大学院生らが協力しました。今回のテーマは「シュワシュワの泡を作ってみよう！」で、炭酸ガスの発生を利用した実験を行いました。

はじめに、家庭でも簡単にできる炭酸水づくりとして、クエン酸と炭酸水素ナトリウムの反応による二酸化炭素発生の実験を行いました。続いて、同じ反応を応用した入浴剤（バスボム）づくりを体験しました。炭酸水素ナトリウムとクエン酸に加え、固めるためのハチミツ、色を付ける食用色素、香りを付けるエッセンシャルオイルを、子どもたちが自由に選んで混ぜ合わせ、自分だけのオリジナルバスボムを作成しました。

最後には、洗剤とクエン酸を溶かした着色水の入ったフラスコに炭酸水素ナトリウム溶液を加え、泡が噴水のように吹き出す実験を行いました。子どもたちは歓声を上げながら、目を輝かせて楽しんでいました。



「理科実験教室」の様子